

e-dream-s通信

e-dream-s ホームページ <http://www.e-dream-s.org>

No.26 発行：2002年9月8日特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

第3回定時会員総会特集号

8月23日、ホリディインエクスプレス大阪靄公園エリア・ハウスにおいてe-dream-s 第3回定時会員総会が行なわれました。9月号では、本総会の参加者の感想や総会に寄せられたメッセージを掲載しています。

目次

1. マンガ喫茶にて 辻莊一 p.2
2. Cの時代 井川好二 p.4
3. 土曜日の“なんば” 中川房代 p.7
4. 元は一つ・今でも一つ 河野良子 p.8
5. 定時総会特集 p.9
6. お知らせ p.16

マンガ喫茶にて

辻 莊 一

@aglanceの今日の一言（9月8日付け）にあるとおりこの原稿は梅田のマンガ喫茶で書いている。地下街にあるためか閉店時間が午後10時と早いのが欠点だが、梅田という繁華街で静かに落ち着いて原稿がかける環境があるというのは嬉しい。

最近貧乏なマンガ読みにとって大変ありがたい二つの設備があつて、その一つがマンガ喫茶、もう一つは大型古書店である。この二つの施設は必要な資源を集積して不特定多数に提供するという意味で、@aglanceとも共通点がありそうなので、ちょっと考えてみよう。

マンガ喫茶は新刊書も含む数万冊の蔵書があり、1時間400円程度でマンガが読み

ほうだいなのはもちろん飲み物やコンピュータも只である。新刊書が一冊400円から600円することを考えれば、金はないが時間のある人間にとってどれだけありがたいか分かるだろう。

家でゆっくり読みたければ、大型古書店に行ってまとめ買いすればよい。ちょっと古いものなら一冊100円以下で手に入る。新しいものはちょっと値が張るがそれでも新刊より安いし、かなりの高値で買い取ってもくれる。もちろん大型古書店の場合はマンガ以外の書籍も安い。普通定価の5割から4割、ちょっと前のベストセラーなら一冊100円だ。

この大型古書店が従来の古書店と違う一番大きな点は値付けの方法にある。従来の古書店の場合、持ち込まれた書籍をいくらで買い取るかを判断するには経験と知識が必要だった。某作家の某出版社から出た何々の初版は発行部数が少ない上に、その作家が後に人気が出て欲しがる人が多い、などという知識がいるわけだ。専門化した古書店にさらに深い専門知識が必須である。大型古書店は、この値付けの作業を徹底的に単純化した。そのやり方を簡単に言うと「新しい・綺麗→高い」、「古い・汚れ・日焼け→安い」である。これでアルバイトでも値付けが出来るようになり大量出店大量仕入れ大量販売が可能になった。そして大型古書店を商売敵とするのは従来の古書店ではなく新刊書店である。従来の古書店の主人が掘り出し物を見つけに大型古書店に通うという話もある。

この大型古書店のやり方が画期的なのは、書籍を内容と無関係に完全に「モノ」として扱った点である。例えば、自分の愛読書で内容も優れ芸術性も高い本を古書店に売りに行って他のつまらない（と自分が思っている）本より安い値段がつけられると、あまりいい気はせず、さらにお前はこの本の価値がわからないのかなどと憤ったりする気持ちは分かるが、大型古書店ではそんなセンチメタリティは通じない。そこには「新しい・綺麗→高い」、「古い・汚れ・日焼け→安い」以外の基準はない。もちろん同じように新しくても人気のある本は高いわけだが、それは商品（モノ）として人気があるから高いだけで、内容のすばらしさや芸術性や学問的価値とは無関係である。

ここまで書いて閉店時間になったので以降は自宅のコンピュータで書くことにする。

逆に、モノとしての書籍（この場合はマンガだが）ではなくその内容だけ売っているのがマンガ喫茶だ。そこでは客は本というモノではなくその内容に1時間400円という対価を払うのである。

つまり、大型古書店はモノとしての書籍を、マンガ喫茶は情報としての書籍を売っていると結論づける事ができる。

と、ここで納得した人は修行が足りません。書籍の値段のことをよく考えてみれば事はそう単純ではないことが分かる。

大型古書店の書籍の価値は、質屋のウクレレの価値と本質的な違いがある。質屋のウクレレは良いもので状態が良ければ、何年経ってもそれなりの価値を持つ。ところが、大型古書店では流行作家の新刊書籍はどんなに状態が良くとも何ヶ月か経つと急激に値下がりする。「新しい・綺麗→高い」というのはつまり、「情報が新しい→高い」であって「綺麗」のほうは、情報を運ぶ媒体として最低限の要件を満たしているということなのである。要するに大型古書店は、やはり本の情報の新しさに対して値段をつけているのであって、モノの部分の価値は入れ物代や包み紙代のようなもので取るに足りないのである。そして大型古書店を利用する多くの人はそこで買った本をまた売りに来る。その買値と売値の差額が情報の値段である。

結局、大型古書店もマンガ喫茶も情報を売り買いしているという結論になる。ただ、情報そのものに値段を付けたり、情報そのものを売るのが難しいので、見かけ上、大型古書店では情報のパッケージとしての本に、マンガ喫茶では席の使用時間に対して課金しているわけである。これを客の側から見れば、欲しい情報につられてやってきて他のものに金を使っているということになる。

この分析を@aglance に当てはめれば、健全財政へのひとつの解決策として、画像という情報そのものを売って採算を取るのは難しいので、写真という情報が欲しくて来た人々に別の形でお金を使って頂く仕組みを作る、ということになるだろう。もっとも残念ながらそのためにはまだまだアクセス数が不足している。少なくとも1日1000アクセスが必要だが、そのためには画像を質量ともに向上させるとともに、さらに積極的効果的なPR活動が求められているのである。

e-dream-s.come.true.

C の時代

「Cの時代」だそうである。

頭に「C」のつく英単語が、キーワードであると云う。もっとも、それが語られる文脈によって、その「C」単語は様々であるらしい。

現在の政治経済状況を話題にする場合、「C」は、China である。“China Shock” “China Shift”などと、云われる。つまり、かつて「眠れる獅子」と称された中国が、近年、急速に競争原理に基づく市場経済へと移行し、その膨大な人口を基礎とする安価な労働力、高まる労働生産性、旺盛な市場力によって、日本も含めた世界の企業は、この China を、生産基地として、あるいは、商品市場として、企業戦略に組み込まざるを得ない状況を云う。政治的にも、目覚めた獅子である中国を、アメリカを含めた世界のどの国も、無視して国際政策を考えることはできない¹。世界の中の日本、特にアジアの中の日本を考えると、この China ファクターは大きな要素である。

二つ目の「C」は、Consumer の「C」。21世紀は消費者社会である。消費者を無視した商品は売れないし、そういう商品しか作れない会社は倒産する。相次ぐ大企業の不祥事を思えば、消費者不在の企業の論理。今問われるのは、Corporate Governance（企業の行動倫理）である。消費者の行動を考えれば、Convenience もキーワードのひとつ。生活の便利さを追求するコンビニ、ファーストフード、宅配、通販。便利なら、いらぬものまで買ってしまふ。もう一つは、Cost。「安くて旨いが、当たり前」も、消費者行動の一つの鍵である。こうした Convenience と Cost-consciousness を基礎とした消費者行動がデフレ現象を誘導しつつ進行する一方、高額商品・サービスへのニーズも衰えてはいない。Customized Service である。自分だけのための商品・サービスを求める欲求は、デフレの今も健在で、自分にとって本当良いと思われるもの、つまりホンモノに、大金を支払うことに、人々は吝かではない。先日、東京でオープンしたルイ・ヴィトンのショップは、一日で一億数千万円を売り上げた。「海外旅行でホテル代を惜しむと、二度とその国に行きたくなる」、とは、最近の日本人の「生活の知恵」である²。

¹ 参考文献： 大前研一 (2002) 「チャイナ・インパクト」東京：講談社。大前研一 (2002) 「中国シフト」東京：講談社。

² 参考文献： 中谷彰宏 (1999) 「自分のためにもっとお金を使おう」東京：

芸術の分野でのキーワードは、Collaboration である。異なった分野で活躍する芸術家が、協力して一つの作品を作り、一人一人の限界を超えて新しい芸術を創造する。音楽家と美術家、文学者と写真家、舞踏家と書道家など、様々な分野での、Collaboration が行われている。ポイントは、それぞれの芸術家が、自分の分野における才能を十二分に発揮しあうことにより、お互いに触発され、新しい価値が創造されると云う点。Synergy（相乗効果）が生まれると云っても良い。

最近目に付く「C」で始まるキーワードをあげてみると、Computer, Communication, Credit Card。何のことはない、アメリカ主導のグローバル化の象徴である。もはや、会社も学校も役所も、コンピュータなしでは仕事ができなくなった 21 世紀。Computer Literacy は、地球市民の必須条件。Communication と云えば、英語による意志の疎通ができることも、必須である。何より、インターネットも英語の世界なのである。日本のような「英語後進国」（あるいは、「英語教育不全国」）にいると実感は薄いですが、マレーシアでも、中国でも、ヨーロッパでも、韓国でも、人々の英語によるコミュニケーション能力は、飛躍的に向上している。Credit Card は、世界の通貨である。海外へ行くとき、現地の通貨への両替が、最小限で良いのは、便利である。シンガポールのホテルでも、フランクフルトのブティックでも、カーディフのシーフード・レストランのでも、VISA も JCB も Diner's も使える。インターネット通販で、海外から商品を購入する際にも、決済はカード。アメリカの友人が、「君と云う人間は誰も信用しちやいないけど、君のカードは皆が信用している。それがアメリカ。おかしい社会さ」と云っていたのを思い出す。グローバル化とは、世界がますますアメリカ化することである。

こうしたアメリカ主導のグローバル化に対立する概念として、Civilization, Culture, Community。地球上に存在する文明は、ひとつではない。文化は無数にある。世界が、消費者社会として再定義され、コンピュータ、英語、クレジット・カードを媒介にして一体化する一方、宗教を軸として固有の文明、文化は、地域社会により強固に根を広げ、徹底した原理主義を深化させる³。イスラム社会はその典型である。マレーシアにバカンスにやってくるサウジアラビアの若い夫婦は、インターネットでフライトの予約をし、ブランド品のショッピングは英語で楽しみ、クレジット・カードでホテルの支払いを済ませるが、若奥さんは、ビーチでも、頭のとっぺんから脚の先まですっぽり覆う黒の民族衣裳着用、一日五回の祈りは欠かさずきちんと捧げるし、食事はいつも不浄を避ける。

ダイヤモンド社。

³ 参考文献：Freidman, T. (1999). *The Lexus and the olive tree*. London: Harper Collins. Huntington, S.P. (1998). *The crash of civilizations and remaking of world order*. NY: Touchstone Books.

NPO・NGOの世界を考えれば、キーワードは Contribution。Charity、つまり、「慈善」と云う名の「偽善」から、脱しつつあるのが 21 世紀。「恵まれない XXX のために寄付を」と云う発想ではなく、地域社会の住民の責任として、地球市民の義務として、あなたは、何ができますか？と云うのが、新しいコンセプトである。

最近、近所にある JR の駅で、2つの団体が行っている署名運動を見かけた。一つは、その駅の階段にエスカレータを取り付けることを、JR に要求する署名。もう一つは、経営上立ち行かなくなったので来年閉鎖することが決まった遊園地を、市が買い上げて市民に解放することを要求する署名。どちらも、その主旨や良しとするが、その方法は如何なものか。署名ではなしに、募金にすればと思う。この不況下に、JR や市役所が右から左へ金を出すとも思われないこともあるが、つまり、その実効性に疑問があるのと、こうした市民生活を向上させようとする主張には、市民各自の社会貢献を問う意図があってしかるべきだと思うのである。子供たちのための遊園地や、身体の不自由な人たちや老人のためのエスカレータではなく、自分たちも楽しみ、利用する施設への応分の貢献を求めべきであろう。Charity ではなく、Contribution を、である。

こうして見ると、「C」で始まるキーワードが、21 世紀を解く鍵のようである。発展途上の NPO としての e-dream-s の活動も、こうした「C」を基本に据えることが肝要であろう。e-dream-s が新しく取り組む事業の一つは、「Charter School プロジェクト」と云う。アメリカで教育改革の柱とされる、教員、保護者、地域社会による学校の自主設立、管理運営のモデルである Charter School を日本やアジアで根付かせようとする企画である。来春、その具体化を目指し、アメリカへその実際を見学するツアーを出す。大きな夢だが、具体化へ向けて動きだした。ちなみに、Charter School も「C」で始まるキーワードである。(Sunday, September 8, 2002)

土曜日の“なんば”

中 川 房 代

「NPO と協同組合の同一性と異質性について論じなさい」

「あなたの身近な店で、客に支持されている店は、どこがよいのかまとめなさい」

これは、宿題レポートのテーマである。何の宿題かというところ

私は7月中旬から「NPO 大学院講座」に通っている。正式な大学院ではないが、大阪 NPO センターの企画で、総合的に本格的に NPO 学を学ぶ場として、大阪・なんばに開校した。私はその1期生の1人なのである。

来年2月までの8ヶ月間、毎週土曜日に講義とゼミがある。NPO 政策や経済、財政、法律などの理論、国内外の NPO のケーススタディなど NPO に関する様々な項目が授業に組み込まれている。1期生は23名で、職業を持ちながら通っている人もあれば、無職の人、NPO の専従スタッフをしている人もいる。年齢も20代から70代までと幅広い。男性も女性もほぼ同数である。

まだ始まったばかりだが、そこで先生方から言われるのは、「NPO という形態は手段に過ぎない。社会のニーズに応えるミッションを実現する事業をするのであれば、株式会社であろうが、ベンチャーであろうが、NPO であろうが、組織形態は問題ではない。」ということだ。裏返せば、NPO も企業と同様の事業遂行力や経営能力を持たなければならないし、NPO もそういう厳しさを併せ持つべきであることをしっかりと受け止めなさいということだと捉えている。

NPO の多くは、志は高いが、資金繰りや経営については素人の集団である。事業計画の立て方、資金計画、マネジメントなどの知識と技術を身につける必要性を感じている。そのための大学院講座である。毎週、意欲に燃えた様々な分野・職業の人々と共に学び意見交換をすることは興味深く、またお互いの交流もでき、なかなか刺激的だ。自分の興味・関心、夢の実現のためでもあり、またそれが社会貢献や今後の e-dream-s のためにも生かすことができるように、しっかりと学んでいきたいと思っている。

8月23日、大阪で e-dream-s の第3回定時会員総会を開催した。

昨年の総会で、e-dream-s の組織作りをこう位置づけている。

設立から5年間で「e-dream-s 創世記」とし、基礎確立の時期とする。更に、その5年間の最初の3年間で「土台作り期」、後の2年間で「基礎確立期」と設定する。

現在の2002年事業年度は、「土台作り期」の最終年となる。4月にデビューした教育用写真アーカイブ “@agance”事業をより一層進めていくこと、それを支える事業、資金調達や組織面での整備を進めていくことで、土台作りの最終年に相応しい1年間となるように私もしっかりと頑張りたいと思う。足腰を鍛えながら共に歩んでいきましょ

う！

元は一つ・今でも一つ

河野良子

南・北朝鮮問題ではなく、アクロス・e-dream-s 問題です。

e-dream-s の総会に参加して、アクロス会員の出席が少ないのは問題だと思っている。出席していた会員は、e-dream-s 理事か、総会で何かの報告をする人で、e-dream-s の総会なんだから当然参加しています、というアクロス会員がほとんどいなかった。

アクロスと e-dream-s はもとは一つの団体です。

発音研究会としてスタートした時は、文字通り「発音」をなんとかする必要を感じて集まった英語教員のグループが、自分たちに必要な研修を考える中で、クロスカルチャーの視点を持つこと、学校という枠を越える視点を持つことの必要を感じて、アクロスとなり e-dream-s が出来た。

教員であるからこそ、学校という枠を越える視点を持つべきで、その時、教員がどのように社会と関わるのかを考えた時、英語教員だけの研修グループであったアクロスは、その枠をはずした団体を作ることになったわけで、e-dream-s はアクロスの必要が生んだものです。

私たちはもはや「発音研究会」ではないと、どこかで言ったか、書いた覚えがあるが、e-dream-s の総会に来るのが当然と感じないアクロス会員は、未だに「発音研究会」感覚なのではないかと疑ってしまう。e-dream-s ができても、アクロスを「発音研究会」に戻すつもりはない…だって、カッコ悪いもの。アクロスと e-dream-s は元は一つ。アクロスにとっては今でも一つです。

定時会員総会特集

8月23日、ホリディインエクスプレス大阪靫公園エライア・ハウスにおいて、e-dream-s 第3回定時会員総会が行なわれました。総会には23名の会員が、引き続

き行なわれたパーティにはゲストも含め41名の参加者が集まりました。参加された方々の感想や、総会へ寄せられたメッセージをご紹介します。

総会に参加して

矢神 尚久

あつい〜っ！残暑の底力を思い知らされている毎日ですが、皆様お元気ですか？e-dream-s 保険事業部の矢神です(笑)。先回の総会に出席して皆さんの前向きな姿勢に僕もいい刺激をもらいました。正直言って僕が e-dream-s にどういう貢献ができるのか？という事はまだハッキリとは見えてません。ただ、どういう形であれ皆さんと関わっていくことで少しずつ貢献できたらいいなあ、と思ってます。名前だけの幽霊会員とならないよう頑張ります。

総会・パーティーの感想

広島 道面和枝

初めて総会に参加しました。e-dream-s 通信での報告を読むだけではピンとこなかったことが明らかになり、出席して良かったと思いました。辻先生の話された2002年度のテーマ、「アマチュアの心とプロの精神」という言葉に、夢や希望のようなものを感じました。

パーティーでは、@aglance に写真を提供して下さっている方も数名参加されており、お話を聞かせていただいたのが印象に残っています。その中の一人、猪熊さんに、海外で写真を撮る際に苦労した話しをお聞きしました。人物が入ってしまった場合の苦労話、”Thank you.”と言ってその国の最少額の紙幣を渡すと、おおかたの場合笑顔でOKだ、などという裏技！も教えていただきました。@aglance のサイトに写真を提供して下さる方は、総じて知的好奇心旺盛な方が多くて面白いと思いました。

総会とパーティーへの参加

岡田かおる

e-dream-s の一会員として何をすべきなのか、何をしたいのか、何ができるのか、毎月の e-dream-s 通信から発信されるメッセージを読みながら、自問してきたが、なかなかうまく考えることができないでいた。まず総会に参加してみることが必要か、と思い、第3回の定時会員総会に参加することにした。また、物理的な距離のために東京からは感じることでできない大阪の雰囲気是直接感じたいとも思った。

夢を抱いてはじめた e-dream-s、その成果と財政面の課題、2年間の成果を今は喜びたい、という代表理事のパーティーでの挨拶、写真提供をしてくださっている来賓の方々の誇らしげな語り、異業種の人と出会うことは大事というパーティーのテーブルでた話題、そして、「シナジー」。2週間たった今でも、総会、パーティーでのことが断片的に私の頭の中でまわって、まだうまく整理できていない。

ひとつ、帰りの寝台急行「銀河」は予想以上に快適だった。また大阪に行くときは利用しよう。

第3回定時会員総会に参加して

辰己ゆきえ

インターネットの普及のお陰で、イー・ドリームズの活動は成り立っている。日ごろの連絡はメールでやりとりをし、中心事業である写真アーカイブ@aglance はインターネット上にある。一見インターネットさえあれば、事足りるように見える。しかしながら、イー・ドリームズに関わる人々それぞれに、画面上の言葉では伝えきれない思いや夢がある。そして、それらを伝える「オフラインの会」が定時会員総会であり、パーティであると言える。定時会員総会は組織として規約として必要なものであるが、オンラインでない「オフラインの会」としての役割もあると思う。より多くの人々と、貴重な時間を実際に共有し、「社会貢献」という目標達成に近付きたいと思う。

第3回定時総会を終えて

田辺恵美

e-dream-s の活動も3年目を迎えた。2年前にホームページの担当を任された時には、本当に何もわからなかった。HTML や FTP、Acrobat など初めてのことばかりで、これは、えらいことになってしまった、と内心とても不安だったのを覚えている。最初のうちは、教えられた手順で更新作業をすれば済んでいたが、そのうちに、新しいページを作る必要が出てきた。誰でも簡単にホームページが出来るソフト、というのを使い始めたが、これもまた、なかなか難しい。いまだに、マスターできたとは言えないが。でも、自分で出来ることは着実に増えてきた。簡単なページなら新しく作ることは出来るようになったし、画像の使い方も少しわかってきた。これからも、少しずつではあるが、自分の出来ることを増やしていけるのは、自分自身としても楽しみだ。

しかし、そうした、技術面での進歩とはうらはらに、いまだによくわからないことがある。それは、ホームページの使い方、効果的な利用方法である。ホームページは e-dream-s の存在やその活動を、インターネットを通じて世の中に知らせる広告塔としての役割を果たしている。しかし、その一方で e-dream-s のホームページを見る側としてはどうだろう。どのような印象を持つのだろうか、また、どのような情報を求めているのだろうか。

3年目を迎えて、e-dream-s の活動も社会に存在感をあらわし始め、これからも、様々な新しいプロジェクトが進められるだろう。その中で、e-dream-s ホームページが果たす役割ももっと大きくなるにちがいない。e-dream-s の会員のみならず、e-dream-s の活動に興味を持ってホームページを訪れた人にとっても、わかりやすく、使いやすく、楽しめるものになるように、改良を重ねていきたいと思う。

e-dream-s 定時総会へ寄せられたメッセージをご紹介します。

総会のご案内ありがとうございます。

場所が大阪ということもあり、今回は伺えませんが、今後のますますのご発展に期待しています。

「朝小」の反響もなにかありましたでしょうか。落ち着きましたら、私の写真もお送りしたいと思えます。

皆様お元気でしょうか。ご親切に、総会へのお誘いをいただきましたが、23日は他に都合があり、残念ながら出席することができません。皆様にお会いして、元気をわけていただきたかったのですが、都合がつかず残念です。アジアツアーの楽しいお話など聞きたかったのですが。アクロスの先生方にはいつもお世話になるばかりで、申し訳なく思っていますが、またお会いする機会があればと思います。厳しい暑さのなか、どうぞご自愛ください。

作井 恵子 様

e-dream-s 総会及び認証2周年記念パーティーの開催おめでとうござす。益々のご発展を祈願しています。

中務 明美 様

いつもご招待いただき感謝しております。やはり、この日は東京で仕事があつて、参加することが難しいです。すみません。お招きいただきました中川さまはじめ、e-dreams-sの活動のますますのご発展を願っております。

朝日新聞フォーラム事務局 安東 建 様

いつもお世話になり感謝申し上げます。また、第3回定時会員総会及びパーティのご案内をいただきありがとうございました。

せっかくですが、今月はどうしても都合がつかず、欠席させていただきます。

8月は会社の決算月でなんともなりません。いちどは参加させていただきたいと思っておりましたが今年も失礼させていただきます。今後とも、できる範囲で協力させていただくつもりでおります。どうぞよろしくお願い申し上げます。残暑厳しき折、くれぐれも御自愛専一に。

もしかして今頃海外でしょうか。さて、23日の件について出席させていただくとご返事したのですが、その後、東京出張（セイン・カミュにインタビューします）が入ってしまい、いけなくなりました。誠に申し訳ありません。また、突然なのですが、9月1日付で徳島支局に異動することになりました。といっても、1年半か2年で再び大阪に戻ってくる異動なのですが。ほんの短いおつきあいで、残念です。でも、何かあれば、遠慮なくおっしゃってください。とりあえず、おわびとご報告まで。

朝日新聞 小西 様

ご案内ありがとうございます。

残念ですが、当日小生は東京にて会議があり出席かないません。ご盛会をお祈り申し上げます。

大菌 早夫 様

e-dream-s 様の活動につきましては、新しく、楽しく、ユニークで、そして何よりも「世の役に立つ」活動であると認識しています。教育に携わる方々が運営する活動の未来への方向性を示すものとして、「おまかせ！教師のパソコン」も、私個人も、強く興味を抱いております。

皆様のより一層のご発展を期待しています。

P. S. 今年は、物凄く暑い夏になってしまいました。教師稼業は気力・体力・知力のどれが欠けても大変です。くれぐれもご自愛ください。

株式会社インタープログ おまかせ！教師のパソコン 編集 川村卓正 様

今後皆様の事業が確実に前進致しますことを念願するとともに新たな共同の取り組みが出来ますことを期待するものです。どうぞ総会が御盛況でありますように祈念しております。

東京書籍関西支社 高校部 幡野利雄 様

明日より24日までインドに出かけておりますので参加させていただけません。すみません。

皆々様に宜しくお伝えください。末尾ながら、貴団体のご発展をお祈り申し上げます。

マノジュレ・シュレスタ 様

第3回定時総会の開催、まことにおめでとうございます。社会的にも存在感を示しつつあるのを頼もしく思っています。これからもオリジナリティを出しながら飛躍されることをお祈りします。

三木秀夫

e-dream-s 様の益々の御発展を心よりお祈り致します。

たすけ隊 社会保険労務士 升谷浩樹 様

ご案内ありがとうございました。残念ながら、アメリカ・サンフランシスコへ出張で欠席させていただきます。イー・ドリームズのさらなる発展を祈念しています。

田尻忠邦 様

会のますますのご活躍をお祈りしております。

東本幸子 様

会のご成功をお祈りします。

松永裕子 様

早いもので認証を受けられて2年がたちました。これからが真価が問われる時期と思いますので、より一層、各事業に邁進下さい。

荒木康弘 様

Sorry, but I am pressed with my business so I can't attend your e-dream-s annual meeting.

May good luck wait upon you & your pioneering works.

SAKITSU Toshiyoshi 様

お知らせ

<大阪のNPO拠点施設、9/6オープン>

9月6日、大阪市と同市が出資する企業、またNPO法人との協働事業であるNPO拠点施設「piaNPO（ピアエヌピーオー）」(大阪市港区築港2)がオープンした。piaNPOは、大阪市港湾局の旧庁舎を利用した6階建ての施設。4,5階にNPO16団体が入居し、他の階には会議室や保育室、カフェやフェアトレードショップ、ギャラリーなども備えている。

「piaNPO」の目的は、単にNPOに事務所を提供することではなく、「人材育成やNPO産業の創造、国際性あるれる豊かなコミュニティづくり」にあり、NPOがひとつの施設に集積することによる連携や、海外NPOとのネットワークづくりの場としての役割、多セクターとの協働の実験場としても期待されている。

piaNPOに関する問合せ先、ホームページは以下のとおり。

piaNPO管理事務所 電話：06-4395-1123

<http://www.interpeople.or.jp/news/piaNPO.htm>

<夏期セミナー紹介版CD-ROMについて>

今回の合宿について、東京支部が担当して作成する『プリント化した報告集』とは別に、広島支部が中心となって、『夏期セミナー紹介版CD-ROM』を作成したいと考えています。

内容については、皆さんが書かれた報告集もデジタルな形で入れ、それ以外に、写真をできるだけたくさん集め、ビジュアルな形でACROSS会員以外の方(外国の方も含む)に、「2002年夏期セミナーはどのようなものだったのか、紹介や広報ができるようなCD-ROM」作りを目指しています。

つきましては、皆さまに写真の提供をお願いしたいと思います。

写真については、

(1) 会員や交流した方々が写っている写真、また夏期セミナーの様子がわかる写真であれば何でも結構です。できるだけたくさん送付してください。具体的には、以下の<写真について>1～7をご参照ください。

(2) 皆様のお写真のうち、@aglanceへ提供する写真と重なるものがあると思いますが、その場合は、@aglanceの方へお送りください。@aglanceで整理された後、こちらにもいただくことになっています。

どうぞご協力のほど、よろしく願いいたします。

写真について

1. 東京支部（岡田さん）に送った原稿に関する写真を1～2枚
2. 学校訪問に参加された方は、その時の写真を2枚～3枚
3. ホームステイをされた方は、そのときの写真を2～3枚
4. フィールドワークに参加された方は、その時の写真を2～3枚
5. フリータイムで回られたときの写真で、何か紹介できるものがある方は、数枚
6. その他、空港、コンビニ、レクチャー、アクロスバー、朝の散歩、お別れパーティー、サイバージャヤ等の見学、IKIM、ゴム園、National Day Paradeなど今回の

セミナーを紹介できる写真を、枚数は自由ですので、よろしくお願ひします。

7. 「おみやげに買って来たもの」を紹介する写真があれば。

(何であるか、どこで買ったものか、面白い点などのキャプションつきで。)

例) 「シンガポールで買ったTシャツ」

胸に、「禁止事項」のプリントがしてある。例えば、ゴミを捨てたら罰金 \$ 1 0 0 0 と書いてある。授業で使う予定、など。

送付先および送付方法

送付先 :

山本 貴子 / e-dream-s 理事 <t-yamamoto@e-dream-s.org>

〒731-4223 広島県安芸郡熊野町川角327-21

tel & fax : 082-855-3544

送付方法 :

1. デジタルカメラで撮影した方、あるいは、普通のカメラで撮影した方で、写真の画像をスキャン出来る方は、@aglanceと同じ写真の規格で結構ですので、できれば、CD-ROMに焼いて、送付してください。
2. 1. の方法がどうしても難しい方は、直接写真をお送りください。ただし、写真の裏に名前と番号を書いておいてください。(番号は、基礎データと同じものにしてください。)

基礎データ

撮影者名、撮影場所、撮影対象、簡単な説明文(明らかに分かるものは必要ありません)をエクセルかワードで送ってくださると助かります。(無理なら、手書きでも結構です。)

締め切り

9月15日(日)

お忙しいとは存じますが、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

なお、送付された写真が必ずCD-ROMに掲載されるかどうかはわかりません。同じような写真が重なった時は、担当の方で選考させていただく場合もありますので、あらかじめご了承ください。

<モンゴルの馬頭琴の演奏会（「白い雲」主催）のお知らせ>

「白い雲」の井村康雄氏より、馬頭琴の演奏会のお知らせをいただきました。いかがですか？

時： 9月30日（月）午後2時と7時（2回）

場所： 千里中央のA&Hホール

費用： 「白い雲」の関係者だと言ってもらえれば ¥1700で入場していただけます。

おすすめの点： 演奏者がモンゴルの若手馬頭琴奏者としては第一人者といわれる「A・バトエルデネ」。なかなか、聴く機会のない演奏者ですのでお勧めだそうです。

編集後記

総会・パーティでは、普段なかなかお会いできない方々にお会いし、語り、おいしいお食事を楽しんだ。実際に、皆さんとお会いすることで、今後も活動が続ける e-dream-s の心臓の鼓動を感じたような気がする。とはいえ、皆が一同に会することはなかなか困難。この通信が、その一助となればと思う。（塚本美紀）